

2 各府県市による実践報告

①「安全・安心な魅力ある学級づくりについて～不登校・いじめへの取組～」 和歌山県教育庁 学校教育局 教育支援課 児童生徒班 班長 武野 宗睦

○研究の趣旨

和歌山県は昨年度より、いじめの認知件数は増加傾向にある。特に近年、低学年での増加傾向が顕著である。そこで、いじめを切り口として安全・安心な魅力ある学級づくりの研究をすすめてきた。

いじめ問題に対して、これまでの取組を続けながらも、いじめを問題行動としてだけではなく、子どもの発達上の課題やサインとして捉えるとともに、各学校の特色に応じた取組を通して、いじめの未然防止・再発防止の方策を見出し、いじめ問題の本質的な解消をめざしている。

○和歌山県のいじめの現状

令和2年度、1000人当たりのいじめの認知件数は、新型コロナウイルス感染症の影響による分散登校や休校措置等もあり、結果として減少したと考えられるが、令和元年度までは、全国の推移と同様増加している。

いじめの認知件数の学校間格差について、全国の公立小学校における年間の認知件数が0(ゼロ)件の学校の割合は11.9%であるが、和歌山県では27.1%となっており、全国より高い割合を占めている。

年間の認知件数が0(ゼロ)件の学校には、児童生徒や保護者向けに公表し、認知漏れがないかの確認をお願いしている。また、校種・学齢が上がるほど認知件数が少なくなっているのは、いじめが見えにくくなっており、認知につながっていない可能性もあるのではないかと考えている。

○いじめの未然防止・再発防止に向けて（本研究の位置づけ）

これまでの取組として、県作成の「いじめ問題対応マニュアル」を活用した早期発見・適切な対応を各学校に周知してきた。心のケアや環境改善の取組も行ってきた。一方、これまで十分とは言えなかつたいじめの“未然防止・再発防止”に向けての取組の強化と位置づけ、本報告の「安全・安心な魅力ある学級づくりの研究」を行っている。

○令和2年度 of 取組と成果

令和2年度の到達目標を「いじめの捉え方」「縦断的な分析の必要性」について共通理解すること、と定め以下のような取組を進めた。

取組

第1回 令和2年10月6日 ○研究の意義、趣旨伝達 ○取組の説明

第2回 令和2年11月17日 ○講義（ワークショップを含む。）

○グループ協議、質疑応答

○「児童の発達といじめ」立命館大学院 特任教授 野田 正人 氏

第3回 令和3年2月19日 ○ワークショップ・情報交換

「安全な魅力ある学級づくりについて」

○講義・協議「いじめを生まない学級づくりの取組」

中川法律事務所 弁護士 勝井 映子 氏

成果

研究員が共通認識できた、いじめを生まない「学級(居場所)」と「教師像」
学級(居場所)…○自己肯定感もてる学級 ○違いを受け入れる学級
○役割がある学級 ○責任感もてる学級
教師像…○子どもをつなぐ教師 ○ほめる教師 ○傾聴する教師
○他の先生から学ぶ教師 ○一貫性のある教師 等

○令和3年度の取組

年間3回の全体研修会に加え、県を南北2つの地域に分けたブロック別研修会を、地域の実態に応じた協議ができるよう実施した。各ブロックのポイントは、紀北「認め合う」「自己肯定」、紀南「言葉の重み」「人の話をよく聴く」「ほめる」「つなぐ」とした。

公開授業を行い、講師の辻 民子氏からの指導・助言により、いじめを生みにくい学級づくり・授業づくりの研修を重ねた。この取組は、いじめの未然防止・再発防止の取組だけでなく、魅力ある学級をつくることで、新たな不登校を生まない取組にもつながると考えている。